

中期経営計画 第四成長期 Stage3 (2019-2022)

2019年6月28日

株式会社ウェザーニューズ

代表取締役

草開 千仁

1970年1月、福島県いわき市。

小名浜港を襲った爆弾低気圧により、貨物船が沈没。

15名の尊い命が奪われました。

「船乗りの命を守りたい」

海の気象台としてスタート。



全世界76億人の情報発信台



第四成長期
(2012-)
「革新性」

2017
2016
2013 **WNISAT-1 打ち上げ成功**

第三成長期
(2004 - 2011)
「健全性」

2011 東日本大震災を受け「TSUNAMI Radarcast」の開発開始
2009 独自観測レーダー「WITHレーダー」ネットワークを日本全国へ展開

第二成長期
(1996 - 2003)
「ビジネスモデル
の多様性」

2002 電力気象サービス提供開始
1999 携帯電話向けサービス開始
1998 鉄道気象サービス提供開始
1996 流通気象サービス提供開始

第一成長期
(1986 - 1995)
「市場の成長性」

1993 道路気象サービス提供開始
1986 **ウェザーニュース創立**
1985 航空気象サービス提供開始

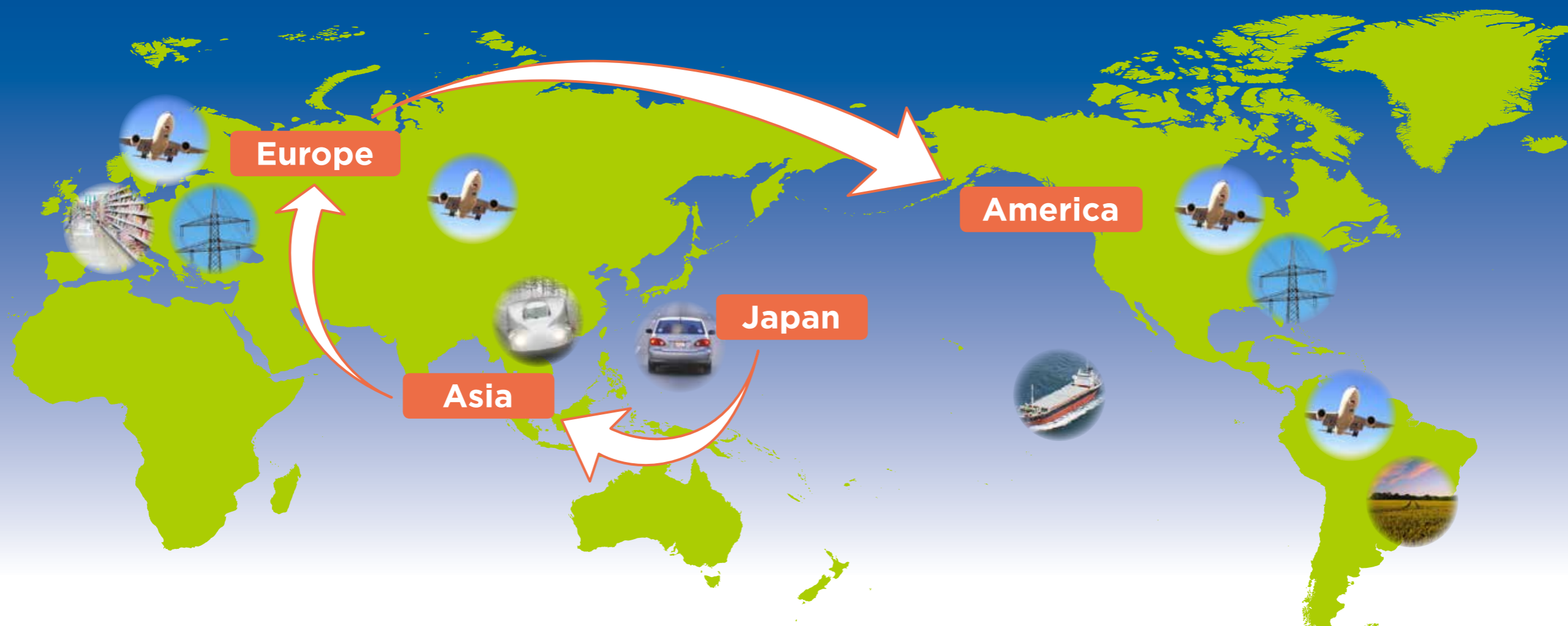
1970s 海の気象台としてスタート 「船乗りの命を守りたい」「いざという時、人の役に立ちたい」

あらゆる市場へ
リスクコミュニケーションを
創造・展開

↑
「いざという時、
人の役に立ちたい」



Service & Infrastructure Company with the Supporters



データ

ウェザーリポート

1日 **180,000** 通

独自インフラ

衛星 **2**機
独自津波レーダー **30**基
独自気象レーダー **80**基
⋮

全世界の観測データ

約 **38,000** 地点

ビジネスデータ

船舶からの
Daily Report 1日 **7,000** 通
航空機からの
PIREP Report 1日 **260,000** 通
⋮



これまで

現在

これから

Stage 1

2012年6月 ▶ 2016年5月

Stage 2

2016年6月 ▶ 2019年5月

Stage 3

2019年6月 ▶ 2022年5月

第四成長期
ビジョン

Service & Infrastructure Company with the Supporters

交通気象と Environment Weather を軸に、無常識な気象観測と感測をもとにして、Global でのマーケットを立ち上げる

WNIの
ミッション

Full Service Weather Company

データサービスから RC など全ての気象情報に関するサービスを提供する世界最大の気象情報会社

Full Service “Weather & Climate” Company

スローガン

“Establish Symbolic Global Service”

重点事業に注力し、Global で展開するシンボリックなサービスメニューと Asia 販売体制

“Accelerate the Global Business”

交通気象の Global 展開、Global Business 加速に向けたビジネス・インフラ投資

Global Business (BtoB 50:50)

BtoB市場において国内・海外売上を 50:50 に

重点
施策

ビジネス
展開

交通気象

交通気象+環境気象

既存事業の
継続成長による収益基盤の強化

Global 販売体制確立

EU・US 展開の本格化

新規発展事業の創出

インフラ
展開

ウェザーリポーターネットワーク
Global 展開

事業展開を加速するコラボ

世界最高品質の予報精度・
コンテンツ生産力の飛躍的向上

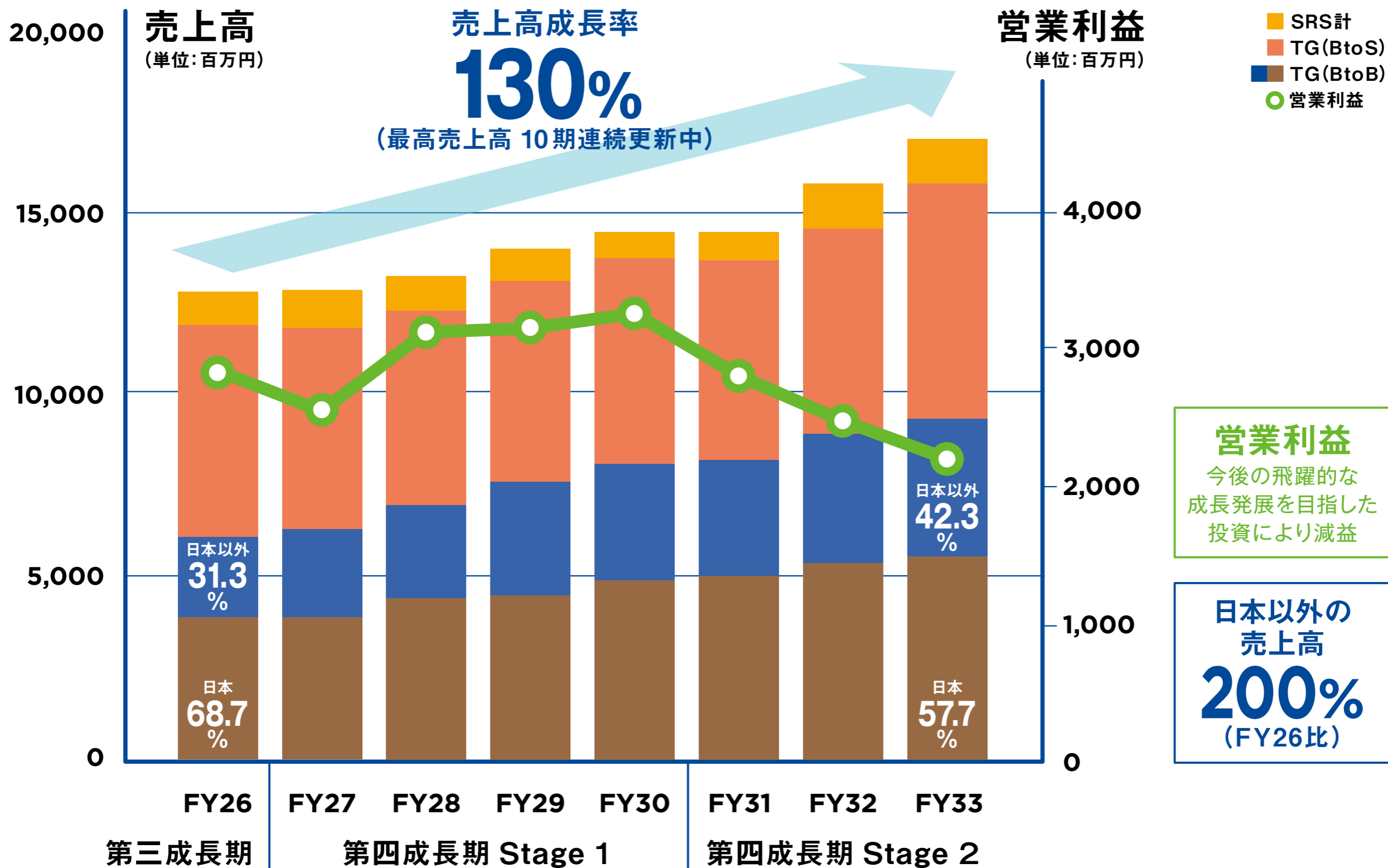
革新的な気象インフラのデザイン

基幹インフラのバージョンアップ

マーケットを加速する
ITサービス基盤の整備

革新的な気象インフラの開発

第四成長期の実績 (FY27~33)



現中期経営計画（FY31～33）の振り返り

		2016年5月 (FY30末)	2019年5月目標 (FY33末)	実績
ビジネス展開	OSR隻数	2,700 隻	6,000 隻	4,500 隻
	SKY Planning 提供顧客数	33 顧客	63 顧客	58 顧客
	Environment Weather 展開エリア	日本	日本・EU	日本・EU
	ウェザーニュース 月間ユニークユーザー (MAU)	1,445 万MAU	2,500 万MAU	2,610 万MAU
投資額 (3カ年)	1,966 百万円 (FY28～30)	4,000 百万円 (FY31～33)	2,573 百万円 (FY31～33)	
総スタッフ数	764 人	900 人	1,012 人	

第四成長期
Stage3

Global Business (BtoB 50:50)

BtoB市場において国内・海外売上を50:50に

市場展開

- 1 交通気象・環境気象のグローバル展開
- 2 予報精度No.1 & コンテンツ化による生産性向上
- 3 マーケットを後押しするクラウド展開
- 4 気候変動に対応した新規事業

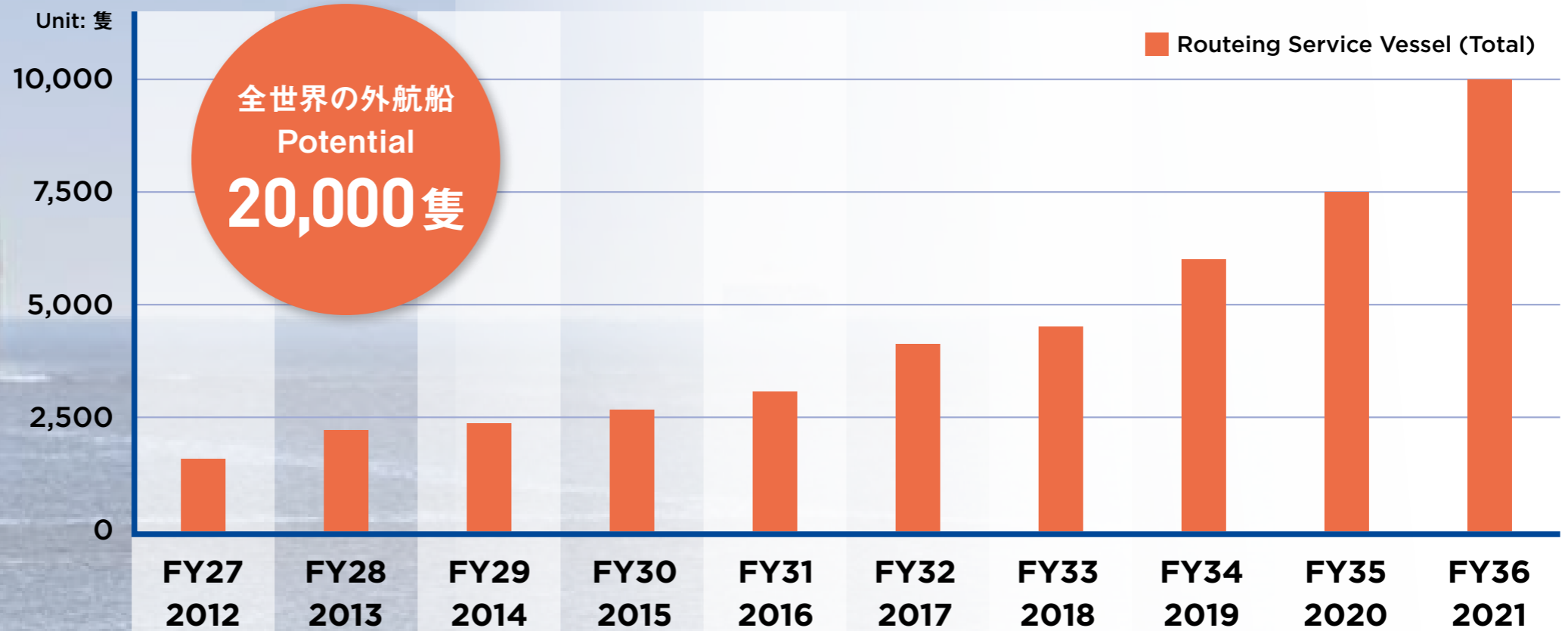
経営基盤

- 1 事業を通じた持続可能な社会への貢献 (ESG 投資)
- 2 働きがい向上 (アントレプレナーシップの活性)

重点施策①：交通気象・環境気象のグローバル展開

気象×航海

Routeing Service 10,000 隻 (全世界の外航船のシェア 50%)



全世界の外航船
Potential
20,000 隻

Unit: 隻

Unit: 隻	FY27 2012	FY28 2013	FY29 2014	FY30 2015	FY31 2016	FY32 2017	FY33 2018	FY34 2019	FY35 2020	FY36 2021
Routeing Service Vessel (Total)	1,600	2,200	2,315	2,700	3,020	4,100	4,500	6,000	7,500	10,000

主要サービス

Optimum Ship Routeing (2010年～)

T-Max, LOOP

Navigation Assessment & Routeing service

主要な投資

WNI衛星

次世代運営システム (AEDYN)

重点施策①：交通気象・環境気象のグローバル展開

気象×航空

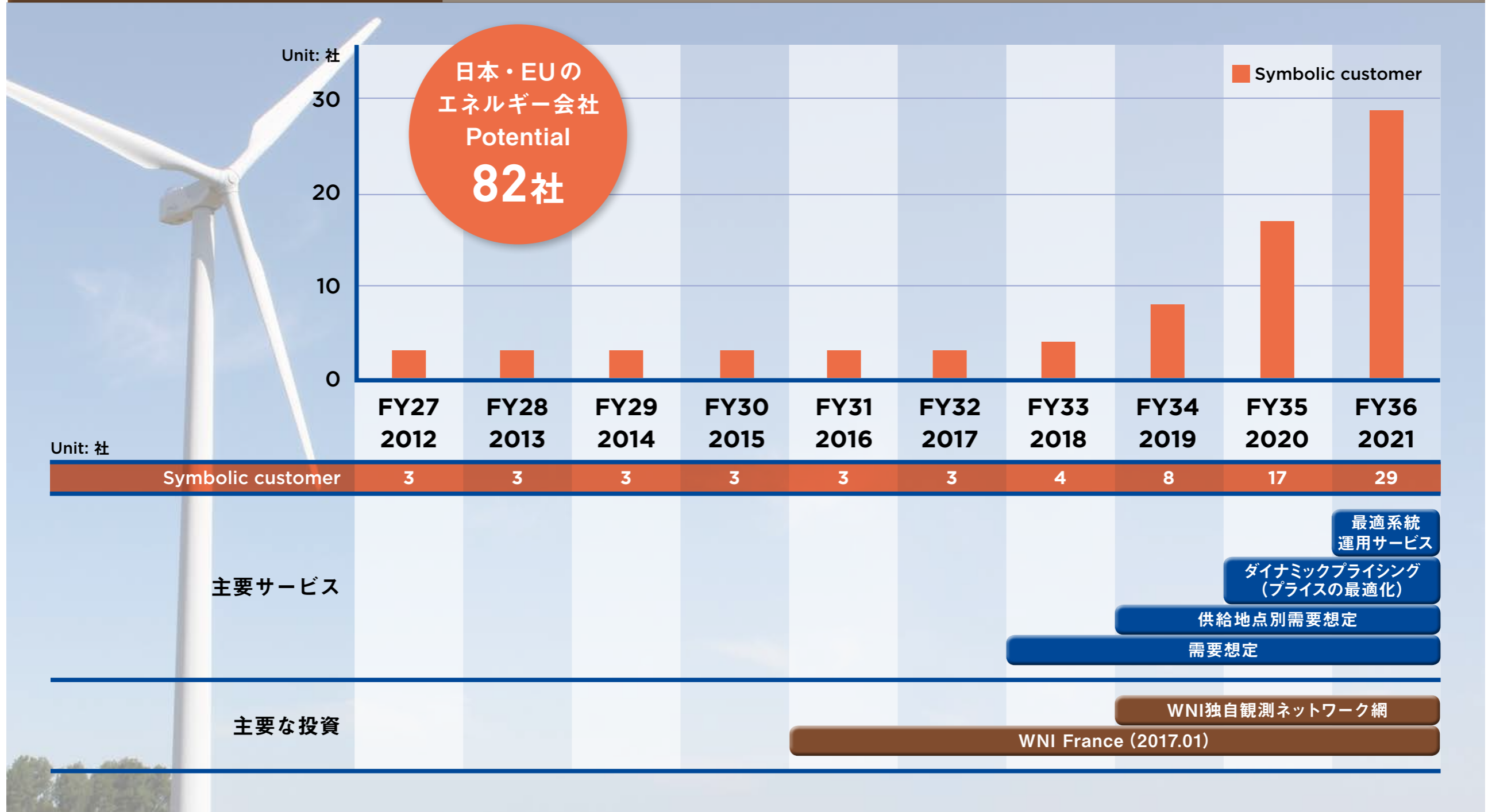
EU/US 市場への展開（全世界の航空会社のシェア 25%）



重点施策①：交通気象・環境気象のグローバル展開

気象×エネルギー

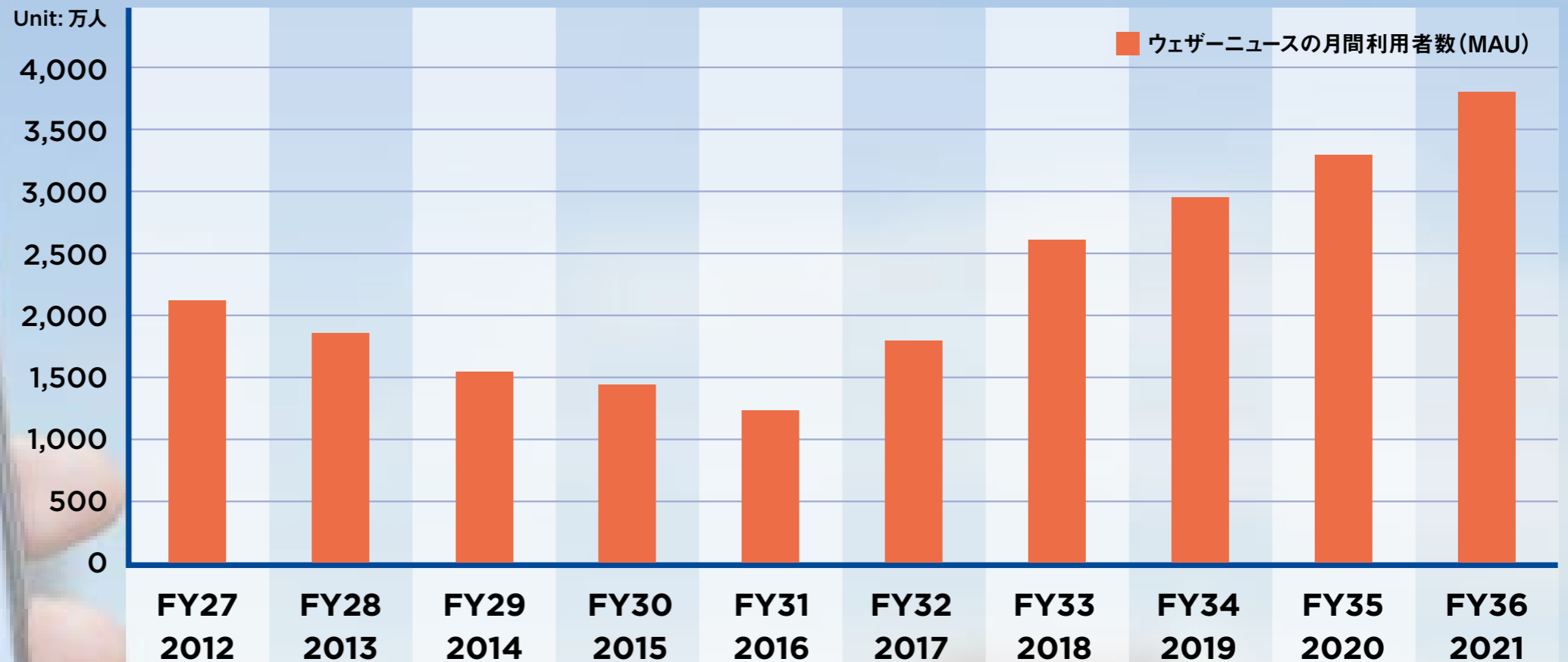
需要予測による電力・ガス会社等のエネルギー市場展開





気象×個人サポーター

日本で No.1 の気象コンテンツプラットフォームの実現



Unit: 万人

ウェザーニュースの月間利用者数(MAU)	2,166	1,831	1,510	1,445	1,223	1,756	2,610	2,950	3,295	3,795
----------------------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

主要サービス

ウェザーニュース※

広告ビジネス

Small b

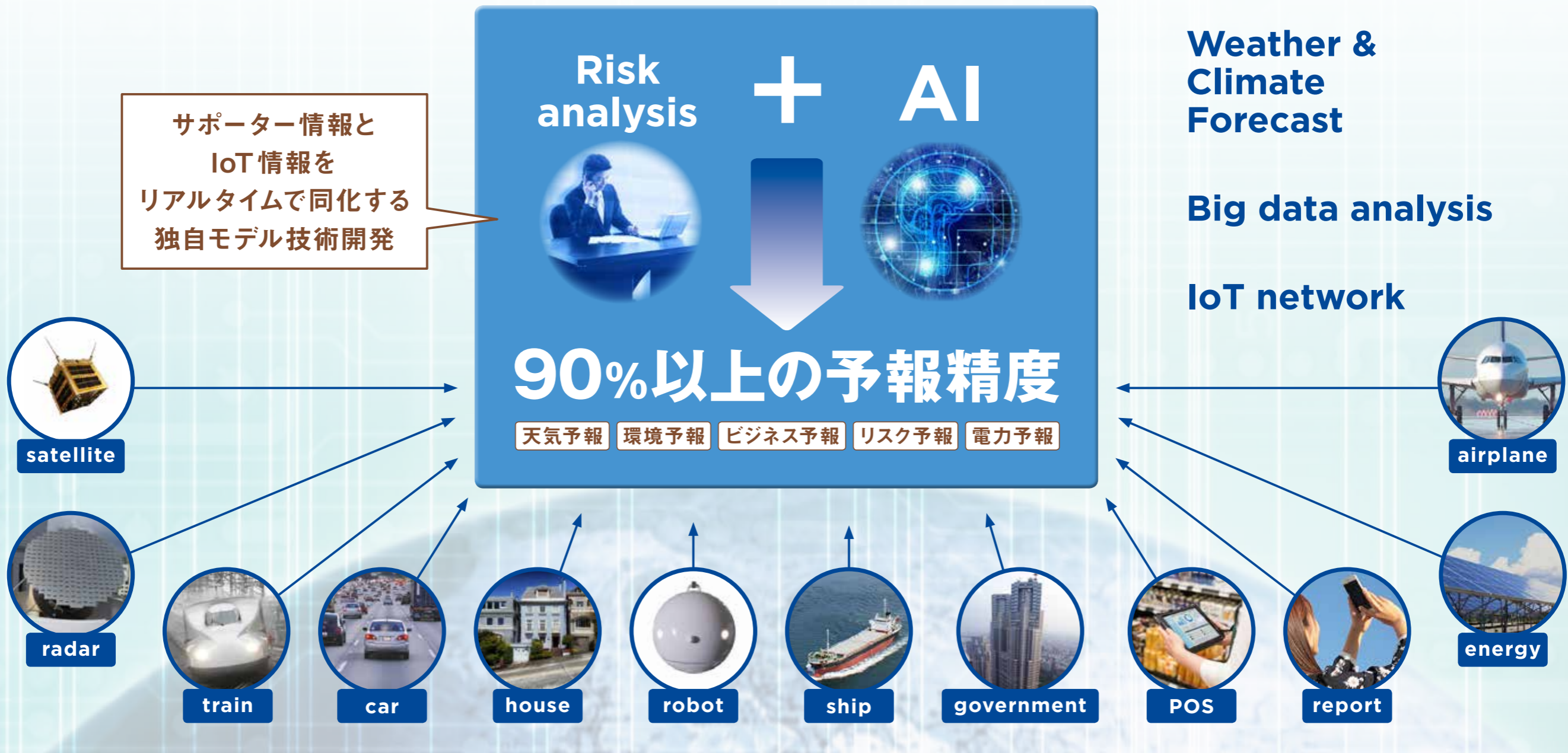
主要な投資

広告投資

※弊社がサービスしている「ウェザーニュース」のアプリ、スマートフォンブラウザ、PC、フィーチャーフォンのブラウザベース、または端末ベースにより集計した訪問者数

重点施策②：世界最高品質の予報精度の追求

世界最大規模の気象/気候Database および独自 AI 解析により世界 No.1 の予報精度の実現

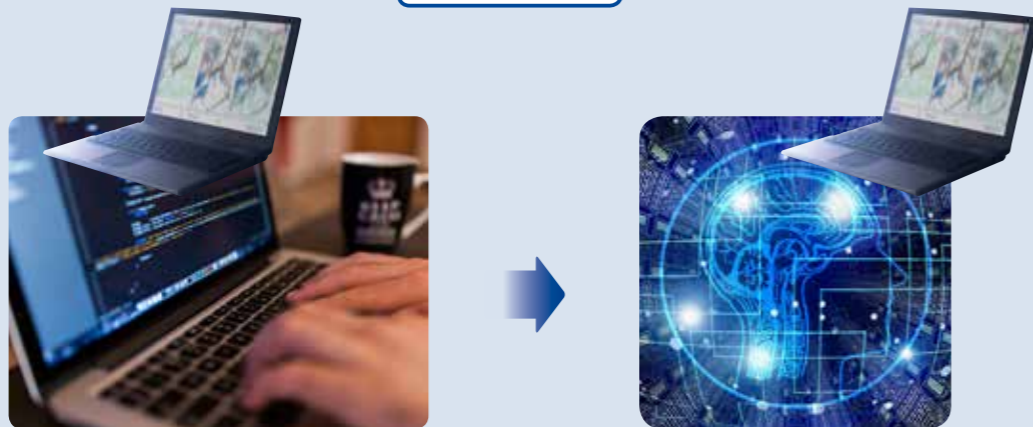


重点施策②：コンテンツ生産力の飛躍的向上

新たな基幹 Database・開発 Platform および独自 AI 技術を用いたコンテンツ生産力の向上

予報

予測値の生成



予報技術者による
修正

機械学習・AIによる
自動修正

生産力UP!!

各市場向け予測値生成の
生産力・キャパシティUP

Risk Communication

リスクコミュニケーション/ブリーフィング



人による
会話



AI
コミュニケーション

モニタリング



人による
監視



AI
モニタリング

生産力UP!!

コンテンツパッケージ & デリバリー



人による
生成



AI
パッケージ

生産力UP!!

Risk Communicationの
生産力・キャパシティUP

重点施策③：マーケットを加速するITサービス基盤の整備

世界最大の気象データベースを活用した、気象リスク分析によるサービス構築・展開を迅速に実施できる Cloud を活用した IT サービス基盤を構築する。



Cloud Solution (Weather as a Service)



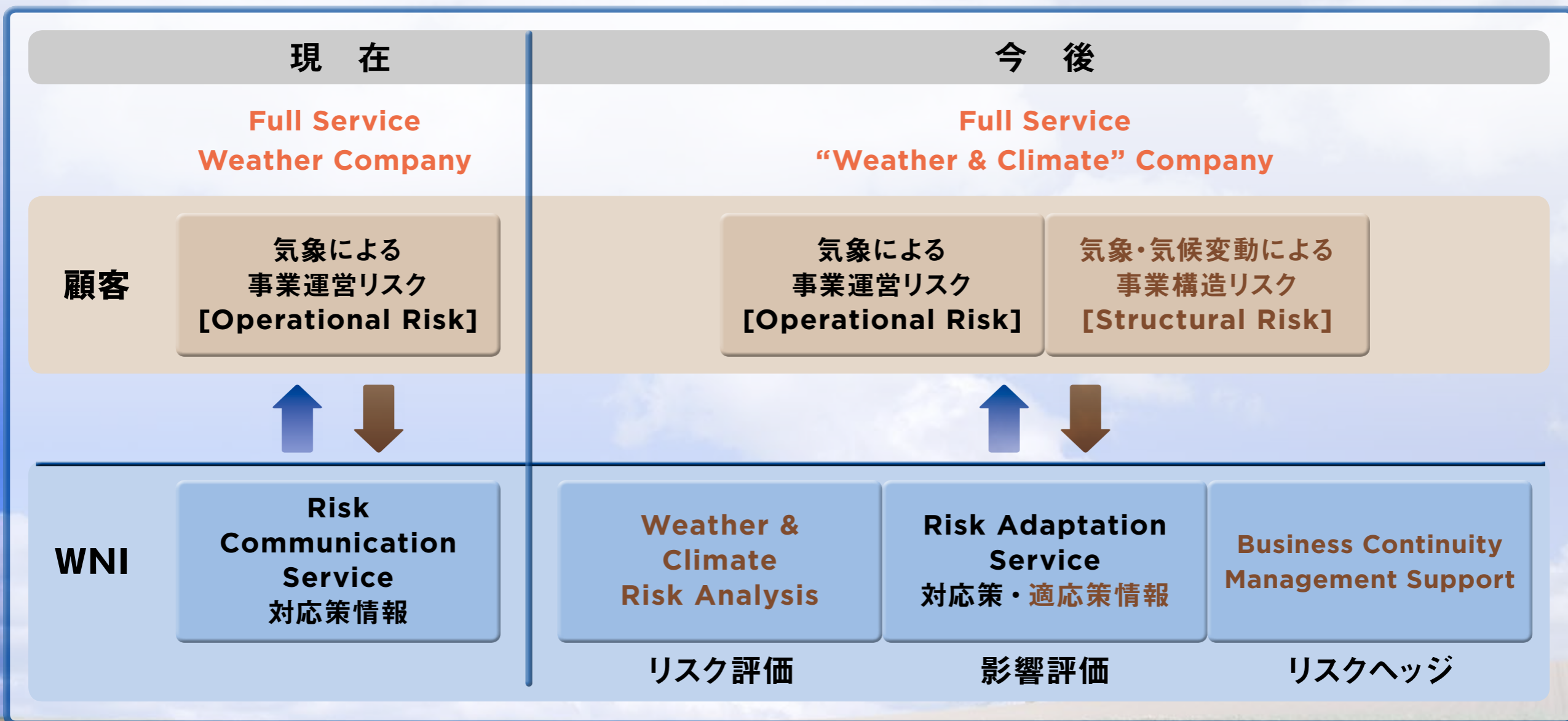
Government, Business, small b, Consumer ... etc

全世界、76億人へのサービス

自然災害による経済損失の増加

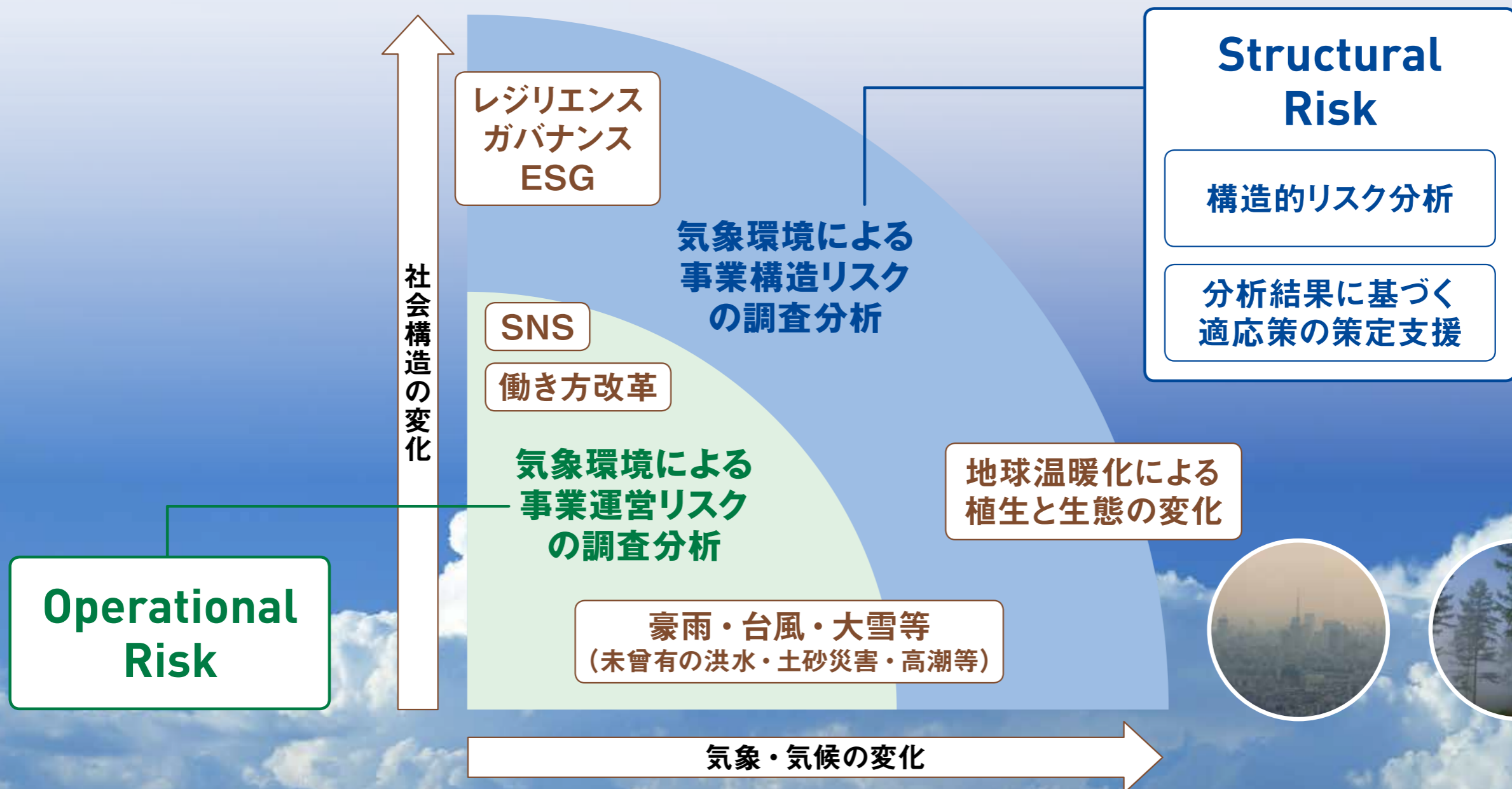
ESG への関心の高まり

気象リスクへの対応策だけでなく
極端気象・気候変動への
適応策も重要



重点施策④：新規発展事業の創出

- 1) Weather & Climate Risk Analysis: 市場におけるビジネスリスクの調査と詳細分析
- 2) Structural Risk: 極端気象や気候変動によるビジネスリスクに適応するための支援サービス創造



業績目標

単位：百万円		Stage 2			Stage 3		
		FY31	FY32	FY33	FY34	FY35	FY36
		2017.5 期	2018.5 期	2019.5 期	2020.5 期	2021.5 期	2022.5 期
為替レート(円)		108	110	110	110	110	110
売上高		14,542	15,874	17,052	18,300	19,700	21,200
TG	B to B	8,288	8,947	9,365	10,100	10,800	11,500
	B to S	5,462	5,737	6,454	6,900	7,700	8,500
SRS		790	1,188	1,232	1,300	1,200	1,200
営業利益		2,824	2,490	2,045	2,100	2,400	3,100
営業利益率		19.4%	15.7%	12.0%	11.5%	12.2%	14.6%
経常利益		2,825	2,495	1,930	2,100	2,400	3,100
当期純利益		1,965	1,138	1,370	1,500	1,700	2,200
ROE		15.0%	8.4%	10.0%	10.7%	11.7%	14.3%
配当性向		55.4%	95.7%	79.6%	72.7%	64.1%	49.5%
設備投資		684	1,029	859	600	600	600
研究開発費		354	477	608	800	600	600



E

Environment

- 気候変動に応じたお客様との取組事例（環境運航）
- 気候変動に影響を与える気象・環境情報の開示（日射量 etc）



S

Social

- アントレプレナーシップを活性する働き方のデザイン（サテライトオフィス・副業制度 etc）



G

Governance

- ガバナンス体制の強化
- 情報開示の充実

配当方針

基本方針 | 高貢献、高収益、高分配の考えのもと配当利回りを見つつ、
100円をベースとし、配当性向50%を目安に配当方針を決定

経営理念

「高貢献・高収益・高分配」

配当方針

年間配当：100円

中間配当：50円

期末配当：50円



当資料に記載されている計画、見通しなどのうち、過去の事実以外は将来に関する見通しであり、不確定な要因を含んでいます。実際の実績は、様々な要因により見通しとは異なる結果となる場合があります。これらの目標や予想の達成、及び将来の業績を保証するものではありません。

従いまして、本情報および資料の利用は、他の方法により入手された情報とも照合確認し、利用者の判断によって行うようお願いいたします。本情報利用の結果生じたいかなる被害についても、当社は一切責任を負うものではありませんのでご承知おきください。